

2009.12.1



白門技術士会

ニュースレター vol.11

会員の皆様へ

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容とともに会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。

今回は、これからの白門技術士会の行事予定をお知らせするとともに、1つのエッセイと2つの報告をお届けします。

エッセイは幹事の鈴木薫さんが、バングラデシュでの簡易トイレ普及に関する海外ボランティアに参加した体験を国際貢献への思いとともに書いてくださいました。

報告の1つは幹事の坂林和重による「第20回 Home Coming Day の出店報告」、もう1つは幹事の木村貞彦さんによる「第43回理工白門祭展示報告」です。

では、ニュースレターをお楽しみください。

◇白門技術士会行事予定◇

No.	行事	日程	内容
1	幹事会	2010年1月21日(木) 18:30~	◎場所：学員会会議室(715会議室) ◎内容：講演会に関する件ほか
2	都市環境学科 技術士ガイダンス	2010年1月21日(木) 4限(14:40~16:10)	◎場所：後楽園キャンパス 聴講歓迎します
3	講演会	2010年2月の土曜日 詳細は別途HPなどで。	◎場所：後楽園キャンパス内 ◎内容：精密機械工学科：中村先生 バイオメトリクス応用した ロボットの最前線(仮題)

付記：各講演会共に、CPD「1.5単位」が付与されます。CO2環境対策技術研究会のCPDは単位数が異なります。

講演会参加費用：各1500円(CO2環境対策技術研究会の参加費等はHPをご覧ください)

講演会后、懇親会を予定しています。

◇エッセイ◇

「海外ボランティア活動に初参加して」：鈴木 薫（上下水道部門）

1. はじめに

ODAのコンサルタント派遣商売を卒業して2年が経過し、技術士活動をしなが様子を見ていたところ、ふとしたきっかけが縁で、あるNPO法人の海外活動の参加要員となり、ラマダン中のダッカ市とその周辺を訪問することになった。これまで二国間供与のODA業務に慣らされてきた関係でなじみがないせいか、活動には滞在中を通じて戸惑いを感じたものがある。

現在、この活動はバングラデシュ国ダッカ市周辺の農村地域のエコサン・トイレ (Ecological Sanitation Toilet) 啓蒙推進事業の第一次5カ年計画の最終フェーズに入るものである。そこで、同団体は5名から構成されるチームを2009年8月上旬から約5週間に渡り派遣した。今回、小職はエコサン・トイレの機能診断並びに最終評価事業に2週間に渡り従事しましたので、ここに現地報告を感想と共に述べさせていただきます。



写真1 水没した村落の生活道路を移動する調査員（移動はボートか徒歩）

2. エコサン・トイレの設置状況

2004年からスタートしたこの草の根事業は2009年に第1次事業計画の5年間の最終フェーズを迎え、総括期に入った。これまでの第1次事業計画は建設期および維持管理期を通じて、ステークホルダーである各機関の役割分担の確認並びに地元住民のコンセンサスを得ることに鋭意専心し、エコサン・トイレのコンセプトの浸透に重きを置いて活動してきたものである。第1号基のエコサン・トイレは同国ムシガンジ県ス

リナガル郡の農村地域（ダッカ市の南西約 40 km）に建設し、2006 年 1 月に供用開始したものである。以後、2 年半に渡り合計 25 基を建設してきており、現在、エコサン・トイレは第 1 期事業の総括期に至っている。このような状況下において各ステークホルダーはセミナー並びにワークショップの開催遂行に向けて鋭意準備を進め現在に至っている。

エコサン・トイレの特性は次のとおりである。

特 性：①尿尿の発生源から固液分離し、また局部洗浄水も分離収集するため、病原菌の繁殖・増殖が抑制され、衛生改善に大いに寄与する。

②臭気が抑制され、蛆・ハエの発生が少ない。

③尿尿は資源として循環利用が可能である。

問題点：①使用方法は難しくはないが、供用初期の訓教期間が必要である。

②訪問者・客人への周知徹底が必要である。



写真2 住民たちへの聞き取り調査状況

エコサン・トイレは資源循環型であり、また、固液並びに局部洗浄水分離型の間接技術で難易度は中間の簡易トイレ施設であるが、O&M（Operation & Maintenance、維持管理）上の外部条件の担保や制約が伴い、初期エネルギーが必要とされる。その後、一旦、供用開始されれば日常のO&Mはわずかなエネルギーで済む中間技術である。しかしながら、メンテナンスフリーというわけにはいかず、今回の診断で明確になったことは全其在良好に管理されているわけではなく、今後の問題点や課題もなくはないと、ということが明らかになった。

3. オーナーシップ（自助努力）の継続支援

同国のステークホルダーが本事業の推進・促進を期待するには各関係機関へのキャパシティー・ディベロップメント（Capacity Development/CD、問題対処能力開発）の導入がかなり有効に作用する。従来のキャパシティービルディング（人材能力開発）およびインスティテューションビルディング（組織の能力向上）から、進化し、問題点の抽出、対処能力を専門家と共に実践していくことにより、同国のオーナーシップ（自助努力）が継続されるものである。それには人材育成が功を奏し、自分達の手で物を考え、自分達で問題点を処理していく解決能力が育成され、エンジニアリング・デザインの思考が定着するものと信じている。ここまでくれば人・金・物の資源投入もクリアになり、すべてに無理・無駄・むら（いわゆる三つの“む”）がなくなり、プロジェクトデザインマトリックス（PDM）の策定が容易になり、高い評価を受けることになると考えられる。

4. おわりに

まもなく雨期が終わり、第2サマーシーズンに入ろうとしている同国を9月第2週に出国した。

ODA以外の海外活動は初参加であった。いろいろなスキームの中で、諸活動を継続している方々を見ると頭が下がる思いであった。しかしながら数ある諸団体の中には不明朗な団体も少なくはないようで、とても正味から感心するわけにはいかなかったというのが実感だった。ODA業務に従事していたときに、海外NGO団体と活動を共にした際にも同じ思いをしたものである。偏見と息を吐きたいが、不作為の実態を現場で見るとどうしても批判的な見方にならざるを得ないようである。いずれにしても活動のコンセプトは素晴らしいものなので、今後も自主ボランティアの仕組みの可能性を模索していきたい。

インド国同様に多様性のこの国で国際貢献活動に携わり、農村地域の間接技術の開発・普及といえども、難易度はそれなりに高い。今後の当地での活動に期待が高まる中、次回に向けての構想も固まりつつあり、技術士としての矜持を持ち、行動原則に従いながらステークホルダーの方々と共に事業を展開・推進していきたい。ひいては、これらの諸活動が国際貢献や社会貢献活動として同国の地域開発のランドマーク的な存在になれば国際エンジニアとしてはこの上ない喜びである。

◇報告-1◇

「第20回 Home Coming Day の出店報告」：坂林 和重（電気電子部門）

1. Home Coming Day の概要

10月25日(日)10:00~16:00に中央大学八王子校舎で第20回のHome Coming Day が開催されました。われわれ白門技術士会でも、模擬店を出店しました。模擬店は、『無料相談会：多方面の技術士がアドバイス、ご相談に応じます。小中学校の理科教育支援などのご相談』と銘打っての出店です。模擬店は、全部で49店が出店され、士族では『不動産建設白門会・司法書士白門会・社会保険労務士白門会・中央大学法曹会』などがありました。

多くのお客様は、卒業生や在校生の家族のようで、小雨の中で多数来場がありました。乗用車等豪華景品の有る抽選会などもあり、大変盛況でした。（数万人の来場者かもしれません）

2. 白門技術士会の出店状況

白門技術士会の出店では、09:00頃から準備を始め10:00~に開店してお客さまをお迎えしました。お客様は、小学校の低学年から70歳代にしてまだまだ現役の方まで多くの方に来て頂きました。人数が多くて、正確にはカウントできませんでしたが、おそらく1,000人以上は、来て戴けたものと思います。

特によかったのが、将来の美女(今は小学生)2人・千葉法務大臣・中央大学法曹会の来訪でした（次頁の写真をご覧ください）。千葉法務大臣は、『燃料電池を見て平野官房長官が理工学部出身なので今日の事をお伝えする』とのことでした。また、中央大学法曹会との出会いは、名刺交換をして今後南甲クラブを含めた話し合いの場を提供くださるようで楽しみが増えました。来訪した皆さんに白門技術士会を知っていただけたのも良かったです。参加した我々も、ちょっぴりですが味わったワインや焼き鳥も美味しかったです。

来年も参加する楽しみが増えました。今年参加できなかった人は、ぜひ来年参加されると良いと思います。また11月1~3日に理工学部白門際があります。思いがけない出会いを楽しみに、皆さんも参加してみてください。



◇報告-2◇

「第43回理工白門祭展示報告」：木村 貞彦（機械部門）

11月1日～3日に涉って行われた後樂園キャンパスでの理工白門祭に白門技術士会として昨年に引き続いて第2回目の展示出展を行いました。場所は化学の大石教授のご尽力で昨年と同じ6号館一階エントランスが確保出来ましたが、前回の掲示板だけの展示ではあまり迫力が無かったと言う事で、金川会長の発案でご友人が経営される横浜/メガケム社から燃料電池とスターリングエンジンの作動実証模型の貸与を得て26日に多摩キャンパスでのホームカミングデーでの展示に引き続いて展示したところ、中日の2日は生憎の雨天であったので全体来場者もやや低調でしたが第一日と第三日目は多くの立寄り見学者がありました。

電気自動車等環境問題から燃料電池の応用範囲拡大が宣伝されていますが、その基本的な原理の理解に、また名前だけは知っている温度差を利用するスターリングエンジンの実際に、家族子供連れの方々のみならず学生でも初めて見たと言うケースも多かった一方で、思わず説明する側が“たじたじ”となる鋭い質問を呈する学生も居た状況であり、同時に技術士資格の説明、学生には受験の啓蒙を行ったので、白門技術士会存在の宣伝に大きな効果があったと信じます。理工白門祭実行委員会にも認知された様で来年も同様な展示物を含めて出展する予定ですが今回参加出来なかった方も是非参加され後輩学生の研究成果の展示なども見学される事を期待します。

（編集：白門技術士会広報部会）